



## 食包協会報 第 186 号（2025 年 4 月号）ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび 186 号（2025 年 4 月号）を公開しました。今号では「包装のリサイクル」をテーマに据え、5 編の記事を掲載しております。

まず、最初の記事では「食品向け器具・容器包装用樹脂のポジティブリスト制度への対応」と題しまして、西包装専士事務所代表の西秀樹様に日本における食品包装規制の仕組みからポジティブリスト（PL）制度導入の趣旨および規制対象、さらに企業の対応に至るまで幅広く解説いただきました。「食品用器具及び容器包装における再生プラスチック材料の使用に関する指針」が廃止された今日、リサイクルされた材料が PL 制度の中でどのように取り扱われるのかという点について読み解くことができる内容です。

2 つ目の記事では「三井化学におけるリサイクルの取り組み ～ケミカルリサイクル・マテリアルリサイクル～（実証実験設備・軟包材のマテリアルリサイクル・相容化材）」と題しまして、三井化学株式会社の油井賢司様および久島浩様にケミカルリサイクルおよびマテリアルリサイクルに関する取り組みや課題について執筆いただきました。幅広い解説の中でも、マスバランス方式に基づくケミカルリサイクルについて特にわかりやすい内容となっています。

次の記事では、「住友化学の環境負荷低減への挑戦」と題しまして、住友化学株式会社の山下史一様、両角文明様、山田勝大様、田中計也様および田和京資様に同社の「責務と貢献」の観点に即したカーボンニュートラルへの取り組みについて解説いただきました。食品包装材の環境負荷軽減への挑戦を前提としたバイオマスへの原料転換や廃プラスチックのリサイクルおよびそれらに関連する技術などについて、非常にわかりやすい内容です。

その次には、「マテリアルリサイクルの未来を拓く、プラスチック包装および成型品の剥離・脱墨システムと取り組み」と題し、東洋インキ株式会社の原子詩奈様に、同社のマテリアルリサイクルを前提とした剥離・脱墨システムについて、開発の必要性から具体的な技術などについて、詳しく解説いただきました。他社さんとの連携など、具体的な運用の仕組みについても深く理解できる内容となっています。

そして最後は、『『トレー to トレー』&『ボトル to 透明容器』のリサイクル ～エフピコ方式で循環型社会に向けて～』として、株式会社エフピコの若林大介様に同社の PSP トレーおよびペットボトルの水平リサイクルおよび循環型リサイクルに関する取り組みや活動について解説いただきました。それらと関わる歴史・背景、技術さらには運用について理解を深めることができる内容です。

私は、食品包装に関する研究室を立ち上げて 3 年目に入ったところですが、包装のリサイクルに関する学内外からの質問や問い合わせが増えてきております。このテーマへの関心が高まりつつあるところ、お陰様で有益な情報にあふれる充実した編成を組むことがで



一般社団法人 **日本食品包装協会**

きました。最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けくださいました皆様に心から厚く御礼申し上げます。

2025 年 4 月 21 日

評議員代表 北澤 裕明

(日本女子大学

食品学・食品包装学研究室)